

● 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当の基準日	
期 末 配 当	3月31日
中 間 配 当	9月30日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
株 主 名 簿 管 理 人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上 場 証 券 取 引 所	大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）
公 告 の 方 法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.ajis-group.co.jp/ir/e-koukoku/index.html （ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

● 株主優待制度のご案内

株式会社エイジスは、株主の皆様への利益還元のひとつとして株主優待制度を実施しております。



●割当基準日 9月末日

●優待内容

100株以上1,000株未満所有の株主様

お米券3kgを贈呈いたします。

1,000株以上10,000株未満所有の株主様

お米券5kgを贈呈いたします。

10,000株以上所有の株主様

お米券10kgを贈呈いたします。



株式会社エイジス

〒262-0032 千葉県千葉市花見川区幕張町4-544-4

TEL：043-350-0888 FAX：043-350-0800

●コーポレートマークについて

これまでのコーポレートマークには、カタカナで「エイジス」とありましたが、日本のエイジスからアジアのエイジスに羽ばたく意味を込めて、カタカナを抜いたものに変更いたしました。

第35期 中間報告書

平成23年4月1日から平成23年9月30日まで

“Low Cost Operation” 時代の棚卸システム



株式会社エイジス

証券コード：4659



「数を間違えないエイジス」 というブランド確立を加速し アジアの成長市場での 飛躍を果たします。

代表取締役社長 齋藤 昭生



第35期の上期の決算概要について市場概況を交えてお聞かせください。前期は東日本大震災による棚卸の見送りなど、少なからず影響があったと思いますが、この上期はいかがでしょうか？

このたびの東日本大震災により被害を受けられた皆様に謹んでお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

上期の経営成績としましては、連結売上高で9,091百万円(前年同四半期比4.1%増)、営業利益は763百万円(前年同四半期比10.9%減)となりました。経常利益では784百万円(前年同四半期比11.4%減)、四半期純利益は403百万円(前年同四半期比6.7%減)となりました。まず、売上高の伸びにつきましては、東日本大震災により延期になった棚卸の需要があったことが、主な理由であります。また、子会社3社を連結の範囲に含めたことも、経営成績において増収に寄与しています。しかし一方で、営業利益に関しては連結子会社の影響等もあり減益となりました。



国内棚卸サービス・海外棚卸サービス・リテイルサポートサービスの上期業績について、お聞かせください。

国内棚卸サービスにつきましては、3月に実施する予定だった棚卸が震災の影響で延期されたことにより、3月の売上減少分を4月および5月に実施して補っております。また生産性は2%向上しましたが、一方で競争の激化による料率の低下によって、そのプラス分が差し引かれる結果になりました。販売管理費につきましては、営業強化のための営業部員増強等による人件費等の増加に伴い経費が増加しましたので、営業利益率は前年同期比で減少しております。

海外棚卸サービスにつきましては、エイジスビジネスサポート株式会社(以下「エイジス韓国」といいます)が大手顧客を獲得しただけではなく、艾捷是(上海)商務服务有限公司およびAJIS (MALAYSIA) SDN. BHD.を連結の範囲に含めたことにより増収(売上高前年同四半期比66.1%増/円ベース)となりました。中でもエイジス韓国においては、ウォンベースで44%増という売上の伸びを達成しています。その反面、

急速な売上の増加は、利益に悪影響を及ぼす懸念があります。経験の少ない棚卸スタッフを大量に採用すると生産性が低下し利益を圧迫することになります。生産性を追求していくための改善を怠らずに、事業拡大を推進していく考えであります。

リテイルサポートサービスにつきましては、株式会社カスタマーサービス・チェックを連結の範囲に含めたこと等により増収(売上高前年同四半期比17.9%増)となりました。しかし、震災の影響によって、棚卸以外の業務を外部に委託する動きにまで至っていない現状があります。今後の復興に向けて動きが加速すれば、棚卸以外の軽作業は増えると予測しています。



エイジスグループのビジョンと中期計画についてお聞かせください。

当社は、2014年度を最終年度とした中期計画を推進中です。この中期計画では、アジアにおけるエイジスブランドの確立を目指しています。そのために、独自技術を身につけた「プロフェッショナル集団」の構築や、エイジスという名を聞いたなら、「数を間違えないエイジス」とイメージされるように正確性の追求をしていきます。

アジアには、まだ手付かずの棚卸ビジネスのマーケットが広がっています。ここには、積極的に経営資源を投入したいと考えています。また現在は「海外展開」という言葉を使わないようにしています。代わって「グローバル展開」や「アジア展開」と呼ぶようにしています。当社は日本の棚卸マーケットにおいて圧倒的な強さを堅持していますが、アジア圏においては米国の大手棚卸会社も進出してきているので、日本から見た海外ではなく、アジアを中心としたグローバルな視点で、海外事業に取り組んでいくべきであると考えております。

このグローバル展開において、当社グループがとる戦略は「品質」です。正しい棚卸の結果という高い品質のサービスを提供することが、なによりも重要であると考えております。そのためには、品質の高さをブランドとして実現できる取組

みを推進してまいります。たとえば当社には、ブロックカウントというカウント方法があります。このブロックカウントという高度なカウント方法と棚卸専門機器によるキー入力によって、正確に早く作業を行います。

この他にも、国内で培った高度な技術やスタッフ教育のノウハウを海外でも展開します。日本から現地に派遣するスタッフも増強して、日本で高い競争力を維持している棚卸作業のノウハウを現地スタッフに身に付けさせて、早い時期から現地での事業基盤を強固にしております。



国内棚卸サービスの今後の取組みについてお聞かせください。

当社の基本方針は「品質重視」です。これは先に申しましたように「正確性」がすべてです。そのためには、人材育成が必要となります。当社では独自の教育プログラムによって、他社との差別化を図る高品質なサービスを提供するための人材教育を徹底し、スキルの高いスタッフを育成していきます。また教育プログラムのブラッシュアップも行い、あわせて棚卸専門機器の開発により精度と生産性を向上させることで、さらに競争力を高めてまいります。

一方営業面では、地域密着営業と新サービス提案、そして流通小売業以外へのアプローチなどを強化してまいります。これまで、当社の営業部門は3種類に分かれていました。一つは新規営業、二つ目は既存顧客への営業、そして三つ目が棚卸以外の新サービスの営業です。こうした機能別の営業体制を地域別に再編し、3種類に分かれていた営業の機能も、ワンストップで対応できるようにいたしました。つまり、お客様は担当の営業部員に対して、三つの機能すべてを依頼したり相談できるようになります。その結果、これまで以上に営業部員が丁寧かつ迅速に対応できるようになります。

その一方で、これまで棚卸の実施業務が忙しくなると、どうしても手薄になりがちだった地域のお客様に対しては、本部の営業部員が担当することで、定期訪問などがおろそかに

ならないように改善していきます。これらの改善によって、顧客企業により密着できる営業体制を整えて、顧客満足度を向上させてまいります。



海外棚卸サービスの今後の取組みについてお聞かせください。

海外は成長市場です。中でもアジアの成長市場への展開を加速していきます。売上高年率30%超の成長を目指します。棚卸事業において重要な戦略は、動員力と拠点数です。教育された人材をどれだけ雇用しているか、拠点をどれだけ持っているかが、競争の優位性において重要になります。

特に中国のような広大な国では、都市から都市への移動に時間もコストもかかります。そうしたロスを減らしていくためには、拠点を増やして動員力を強化する取組みが必要です。そこで、中国においては新たに広州、北京および香港という3拠点に子会社を設立しました。

今後のアジア展開における棚卸サービスにおいては、二つの取組みが求められると考えています。一つは、棚卸経験が豊富な日本人(当社社員)を現地に派遣して、当社の求める「正確性」を追求した優れた人材(海外子会社現地社員)を育成することです。もう一つは、現地で経営者として才覚のある人材を採用して、当社の教育プログラムに基づいて棚卸を含めた当社の業務を勉強してもらい、現地に適した事業展開を推進する幹部社員を育成する取組みです。やはりその国で成功するためには、日本人によるオペレーションには限界があります。その国を熟知している現地人材が中心となって経営を拡大していかなければ、アジア圏での成功は期待できません。



最後に、株主様へのメッセージをお願いします。

当社は、国内約2,000社という優れた顧客資産を持ち、教育された人材の動員力やマネジメント力を強みとして、全国



ネットワークの棚卸サービスやリテイルサポートサービスなどを提供しております。国内での棚卸マーケットシェア約8割という強みをさらに伸ばしていくために、競合他社との価格競争にならないように、当社のコストパフォーマンスを高めることで、既存のお取引先との関係強化も推進してまいりました。

また、当社は、流通小売業が自社棚卸を行うよりも正確かつ3倍の生産性を実現するための取組みも行っていました。

しかし、震災の影響に加え、歴史的な円高や欧州連合(EU)の金融不安にタイの洪水など、厳しい経営環境の中で、国内の大企業も赤字決算になるなど、予測できない事態が起こっています。

この危機を乗り越えていくためには、全社を挙げて体質改善に取り組んでいかなければなりません。社内からの改革がなければ当社の将来的な成長はない、という危機意識を持ち続け、全社員が一丸となってまい進していくことが、この難局を乗り越える大きな課題であります。

今後も当社グループは、さらに業務効率などの改善に努め、棚卸サービスおよびリテイルサポートサービスの品質向上と生産性向上によって、収益力の向上を目指してまいります。

株主還元につきましては、安定配当の継続に向けて当期末での1株当たり45円の配当を予定しております。

株主の皆様におかれましては、当社の取組みを是非ご理解いただき、今後ともさらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特集：エイジスグループのご紹介

エイジスビジネスサポート株式会社

所在地 大韓民国ソウル特別市

設立 2003年4月14日

資本金 6億ウォン

事業内容 実地棚卸サービス・その他の流通業周辺サービス

従業員数 46名

営業拠点 8ヶ所

代表理事

秋葉 孝



エイジスビジネスサポート株式会社について(概況)

エイジスビジネスサポート株式会社は、2003年4月エイジス初めての海外拠点として大韓民国ソウル特別市に設立されました。設立当初は韓国において急速に店舗網を拡大していた大型割引店(※)への棚卸サービス提供が主体でしたが、その後コンビニエンスストアチェーンが躍進するに伴い、増加するチェーン店舗への対応や衣料品チェーン、書店などにお取引先を拡大しております。

本社はソウル特別市江南地区にあり、現在(2011年9月末)釜山・大田・大邱・仁川市などの主要8都市に営業所等を設置しています。正社員46名と繁忙期330名を超える棚卸スタッフが韓国では唯一の全国サービス網により事業展開しております。さらに、棚卸サービスを中心に、資産棚卸や接客調査、新店陳列・改装陳列業務など流通小売業に欠かせない多様な

リテイルサポートサービスを提供しております。教育訓練されたスタッフが正確でスピーディにサービスを提供することで、韓国の流通小売業の発展と近代化に貢献してまいります。

※大型割引店：大型総合ディスカウントストアであります。



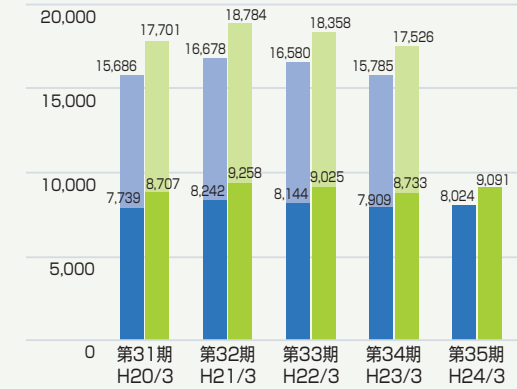
エイジスビジネスサポート(株)社員一同(本社入居ビル前)

今後の経営戦略について

創業10周年を迎える2013年に向け、韓国国内での売上高伸長率30%以上の成長を目標に掲げました。変化の激しい事業環境に応じた営業力の強化を行ってまいります。また、受注能力向上のための拠点増設および管理者の教育を継続し、エイジスグループのグローバルオペレーションの継続実施により、高品質なサービス提供に努めてまいります。さらに、新型棚卸専門機器の導入と基幹情報システムの再構築を進め、すばやい経営判断が行える体制を作ります。

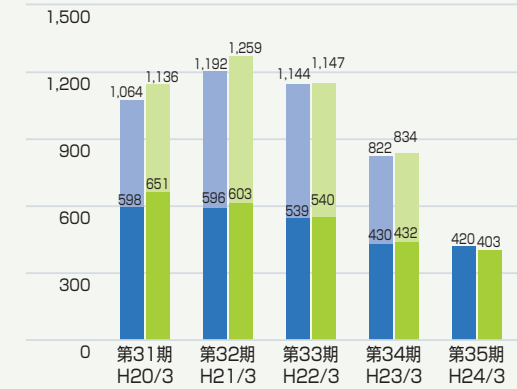
当社とすでに取り引実績のある韓国顧客企業においても、中国や東南アジア諸国への店舗展開をすでに行っている企業、または計画している企業も多数存在します。このような顧客に対しては海外進出を棚卸サービスという面でサポートできること(エイジスグループ海外ネットワークの活用)をアピールするとともに、リテイルサポートサービスの提供とあわせ、提案営業を積極的に展開することで、さらに経営基盤を固めてまいります。

売上高 (単位：百万円)



既存顧客、新規顧客の売上がともに伸長したことに加え、震災による月ズレの実施、臨時棚卸が発生したことなどにより、当第2四半期の連結売上高は前年同四半期比4.1%増の9,091百万円となりました。

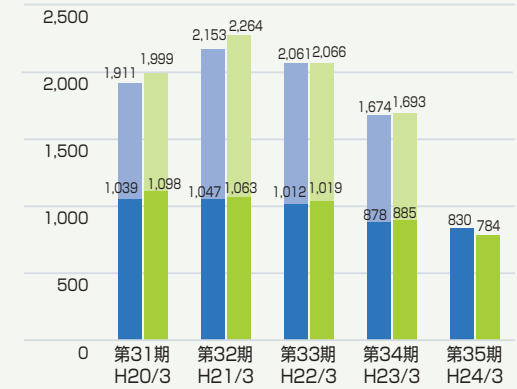
四半期（当期）純利益 (単位：百万円)



投資有価証券の評価損や関係会社株式評価損などにより特別損失75百万円を計上し、当第2四半期の連結四半期純利益は前年同四半期比6.7%減の403百万円となりました。

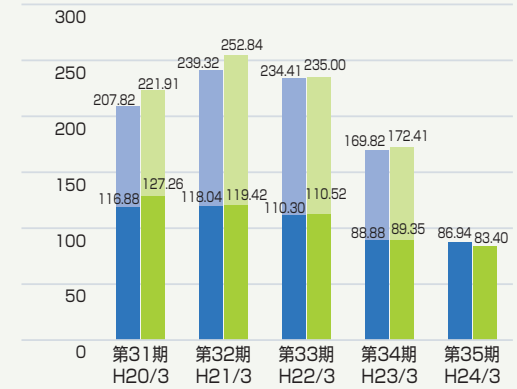
単体 ■ 第2四半期 ■ 通期 連結 ■ 第2四半期 ■ 通期

経常利益 (単位：百万円)



生産性に改善が見られるものの、料率低下の影響と人件費の増加、新規連結子会社の影響などにより、当第2四半期の連結経常利益は前年同四半期比11.4%減の784百万円となりました。

1株当たり四半期（当期）純利益 (単位：円)



当第2四半期の連結1株当たり四半期純利益は前年同四半期比5.95円減少し83.40円となりましたが、期末1株当たり配当予想45.00円と安定配当方針を継続しています。

当第2四半期連結累計期間の概況（連結）

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、本年3月11日に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所における事故の影響等により、企業業績や雇用情勢は依然として厳しい状況で推移いたしました。また、欧米の財政問題や円高の進行等景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの主要顧客であります流通小売業界においては、一部に企業収益の改善も見られたものの、流通小売業界全体での業態、業種を超える競争や先行き不安による消費マインドの落ち込み等により、厳しい経営環境が続いております。

セグメント別の概況

【国内棚卸サービス】

国内棚卸サービスは、震災の影響による損害確定や直近在庫の確定を必要とする棚卸が増加したこと

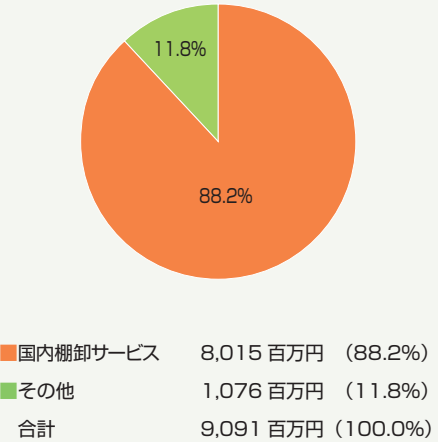
等により、売上高は8,015百万円(前年同四半期比1.4%増)、セグメント利益は803百万円(前年同四半期比5.1%減)となりました。

【その他】

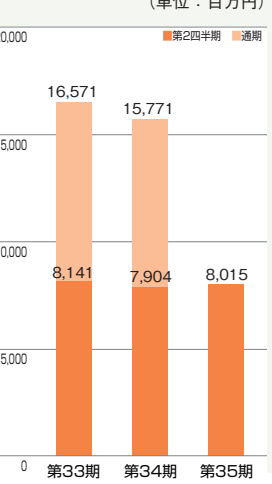
海外棚卸サービスは、当第2四半期連結会計期間から新規連結した艾捷是(上海)商務服务有限公司およびAJIS (MALAYSIA) SDN. BHD.の2社を含め、事業全体としては概ね堅調に推移しました。

またリテイルサポートサービスについては、人材派遣事業は堅調に推移したものの、第1四半期連結会計期間から新規連結したカスタマーサービス・チェック事業は経済状況を反映して厳しさが続いております。売上高は1,076百万円(前年同四半期比29.7%増)、セグメント損失は45百万円(前年同四半期セグメント利益6百万円)となりました。

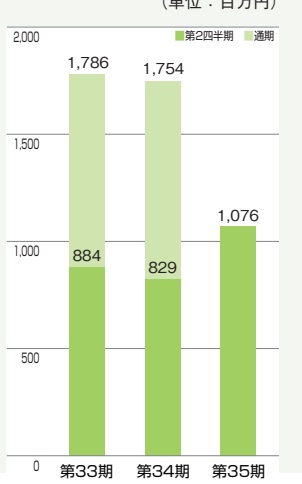
事業の区分別売上高（構成比）



国内棚卸サービス売上高 (単位：百万円)



その他売上高 (単位：百万円)



四半期連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

	当第2四半期 H23.9.30現在	前第2四半期 H22.9.30現在	前 期 H23.3.31現在
資産の部			
流動資産	6,957	6,524	6,665
固定資産	3,500	3,381	3,420
資産合計	10,457	9,906	10,085
負債の部			
流動負債	2,616	2,458	2,228
固定負債	204	333	332
負債合計	2,821	2,791	2,560
純資産の部			
株主資本合計	7,692	7,197	7,599
資本金	475	475	475
資本剰余金	489	489	489
利益剰余金	8,035	7,540	7,943
自己株式	△1,307	△1,307	△1,307
その他の包括利益累計額合計	△79	△107	△99
少数株主持分	24	24	24
純資産合計	7,636	7,114	7,524
負債純資産合計	10,457	9,906	10,085

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

	当第2四半期 H23.4.1～H23.9.30	前第2四半期 H22.4.1～H22.9.30	前 期 H22.4.1～H23.3.31
売上高	9,091	8,733	17,526
売上原価	6,757	6,492	13,131
売上総利益	2,334	2,241	4,394
販売費及び一般管理費	1,570	1,384	2,756
営業利益	763	857	1,638
営業外収益	29	44	88
営業外費用	9	16	33
経常利益	784	885	1,693
特別利益	—	0	1
特別損失	75	115	227
税金等調整前四半期(当期)純利益	709	770	1,467
法人税等	305	337	632
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△0	0	△0
四半期（当期）純利益	403	432	834

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

	当第2四半期 H23.4.1～H23.9.30	前第2四半期 H22.4.1～H22.9.30	前 期 H22.4.1～H23.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	627	715	1,510
投資活動によるキャッシュ・フロー	△737	△412	△785
財務活動によるキャッシュ・フロー	△314	△247	△278
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△4	△2
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△424	51	444
現金及び現金同等物の期首残高	3,518	3,073	3,073
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	21	—	—
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高	3,115	3,125	3,518

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況（平成23年9月30日現在）

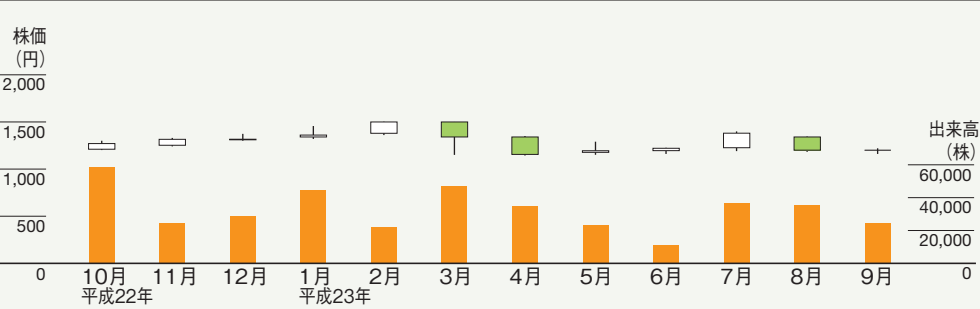
発行可能株式総数	14,000,000株
発行済株式の総数	5,385,600株
株主数	2,687名

大株主（上位10名）（平成23年9月30日現在）

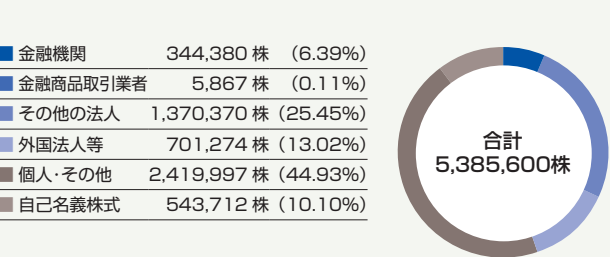
株主名	当社への出資状況	
	持株数（株）	出資比率（%）
有限会社斉藤ホールディングス	1,211,900	22.50
齋藤昭生	789,980	14.66
ビービーエイチフォーフィデリティー ロープライスストックファンド	438,500	8.14
齋藤茂男	203,900	3.78
小林美保子	191,800	3.56
齋藤泰範	127,670	2.37
野村信託銀行株式会社（投信口）	114,100	2.11
メロンバンクエヌエー クライアントオムニバス	100,500	1.86
清水昭順	90,170	1.67
エイジス従業員持株会	89,656	1.66

（注）当社は、自己株式543千株を保有しておりますが、当該株式には議決権がないため上記大株主から除外しております。

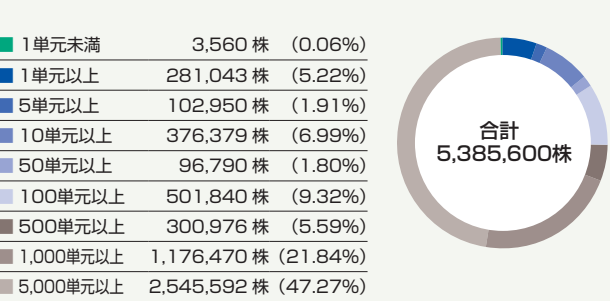
株価・出来高の推移



所有者別分布状況（平成23年9月30日現在）



所有株数別分布状況（平成23年9月30日現在）



会社概要	
会 社 名	株式会社エイジス (英文名 AJIS CO., LTD.)
資 本 金	475百万円
設 立 年 月 日	1978年5月23日
従 業 員 数	265名（402名 ※連結）
営 業 拠 点	直営48ヶ所 FC34ヶ所 (合計82ヶ所)
業 務 内 容	●実地棚卸サービス ●その他の流通業周辺サービス
主要取引銀行	●三菱東京UFJ銀行 ●千葉銀行 ●みずほ銀行 ●三井住友銀行
ホームページ	http://www.ajis-group.co.jp/

取締役および監査役	
代表取締役社長	齋 藤 昭 生
常 務 取 締 役	近 江 元
常 務 取 締 役	高 橋 一 人
取 締 役	竹之下 正 夫
取 締 役	戸 丸 富志夫
取 締 役	山 根 洋 行
取 締 役	手 塚 勝 也
取 締 役	平 石 智 之
取 締 役	森 和 弘 ※1
常 勤 監 査 役	鈴 木 行 雄
常 勤 監 査 役	増 子 泰 由 ※2
監 査 役	安 田 登 ※2

※1 森 和弘は、会社法に定める社外取締役であります。
※2 増子 泰由および安田 登は、会社法に定める社外監査役であります。

主要取引先		
コンビニエンスストア		
サークルKサンクス	セブン-イレブン・ジャパン	ポプラ
スリーエフ	デイリーヤマザキ	ミニストップ
セーブオン	ファミリーマート	ローソン
G.M.S./スーパーマーケット		
アルビス	コープこうべ	ベルク
イオンリテール	コープネット事業連合	マックスバリュ各社
イオンキミサワ	サミット	マルエツ
イズミ	サンセブン	万代
イズミヤ	大黒天物産	みやぎ生協
イトーヨーカ堂	デスコジャパン	ヤオコー
いなげや	東急ストア	ヤマザワ
オークワ	とりせん	ヤマナカ
オオゼキ	長崎屋	ユーコープ事業連合
オギノ	原信	ユニバース
Olympic	パロー	ヨークベニマル
カスミ	ペイシア	ライフコーポレーション
関西スーパーマーケット	平和堂	
百貨店		
大丸松坂屋百貨店	東急百貨店	丸井
高島屋	阪急阪神百貨店	三越伊勢丹ホールディングス
天満屋	松屋	
ホームセンター/ドラッグストア/ディスカウントストア		
ウェルバーク	サンドラッグ	富士薬品
カインズ	CFSコーポレーション	PLANT
カワチ薬品	ジップドラッグ	ホームマック
クスリのアオキ	島忠	マツモトキョシ
クリエイト エス・ディー	スギ薬局	ユタカファーマシー
ケーヨー	セイジョー	ユニリビング
ゲンキー	セキチュー	ライフオート
コーナン商事	ダイユーエイト	LiXILビバ
コクミン	千葉薬品	ロイヤルホームセンター
サンデー		
書店		
あおい書店	三省堂書店	丸善
旭屋書店	三洋堂書店	宮脇書店
ウィレッジヴァンガードコーポレーション	JR東日本リテールネット	未来屋書店
勝木書店	ジュンク堂書店	有隣堂
カルチュア・コンビニエンス・クラブ	文教堂	リプロ
紀伊國屋書店	文真堂書店	
アパレル		
エディー・パウアー・ジャパン	東京シャツ	ユニクロ
クリスチャン ディオール	西松屋チェーン	ライトオン
ゴールドウィン	バル	ワークマン
ザラ・ジャパン	ポイント	ワールド
ジョルジオ アルマーニ ジャパン	ポロラルフローレン	
その他		
赤ちゃん本舗	上新電機	日本トイザらス
アディダス ジャパン	ゼビオ	ビックカメラ
エディオン	セリア	ヒラキ
キャンドゥ	大創産業	藤久
九九プラス	東急ハンズ	メガスポーツ
クレアーズ日本	ドライバースタンド	やまや
コーチ・ジャパン	ドン・キホーテ	良品計画
コジマ	ニトリ	ロフト
※ 敬称・法人格は省略させていただきます。 ※ 50音順		

●株式会社エイジス		
青森D.O.	千葉D.O.	岐阜D.O.
秋田D.O.	市原サテライト	金沢D.O.
盛岡サテライト	柏サテライト	富山サテライト
仙台D.O.	東京D.O.	大阪D.O.
山形サテライト	東東京サテライト	東大阪サテライト
郡山D.O.	吉祥寺D.O.	奈良サテライト
宇都宮D.O.	八王子D.O.	堺D.O.
小山サテライト	立川サテライト	京都D.O.
水戸D.O.	横浜D.O.	神戸D.O.
土浦サテライト	横浜関内サテライト	姫路サテライト
新潟D.O.	厚木D.O.	岡山D.O.
高崎D.O.	町田サテライト	松江サテライト
熊谷サテライト	静岡D.O.	
長野D.O.	沼津サテライト	
松本サテライト	浜松D.O.	
大宮D.O.	名古屋D.O.	
越谷サテライト	金山サテライト	
川越サテライト	四日市D.O.	

●エイジス九州株式会社		
広島D.O.	福岡D.O.	八代サテライト
広島北サテライト	福岡東D.O.	宮崎D.O.
福山D.O.	久留米D.O.	鹿児島D.O.
山口D.O.	長崎D.O.	沖縄D.O.
下関サテライト	佐世保サテライト	沖縄北サテライト
小倉D.O.	佐賀D.O.	
大分D.O.	熊本D.O.	

●エイジス北海道株式会社		
札幌D.O.	函館D.O.	帯広D.O.
札幌中央D.O.	旭川D.O.	釧路D.O.
苫小牧D.O.	北見D.O.	

●エイジス四国株式会社		
高松D.O.	高知D.O.	道後サテライト
徳島D.O.	香川西D.O.	
松山D.O.	新居浜D.O.	

※ D.O.（ディストリクト オフィス）とは営業所のことです。
サテライトとは出張所のことです。



●子会社および関連会社		*は連結子会社
●子会社		*AJIS (MALAYSIA) SDN. BHD.
【国内子会社】		愛捷是（広州）商務服務有限公司
*エイジススタッフサービス株式会社		AJIS INDIA PRIVATE LIMITED
*株式会社カスタマーサービス・チェック		愛捷是（北京）商務服務有限公司
エイジスシステム開発株式会社		AJIS (THAILAND) COMPANY LIMITED
エイジスコーポレートサービス株式会社		AJIS (Hong Kong) Co., Limited
【海外子会社】		
*エイジスビジネスサポート株式会社		
大連愛捷是科技有限公司		●関連会社
*艾捷是（上海）商務服務有限公司		台湾愛捷是股份有限公司